

3-2 社会的状況

3-2-1 人口及び産業の状況

(1) 人口及び世帯数

調査地域周辺における人口、世帯数及び人口密度を表 3-2-1 に示す。

平成 27 年国勢調査において、南区の人口は 136,935 人(世帯数:61,064 世帯)、緑区の人口は 241,822 人(世帯数:95,210 世帯)となっている。

平成 22 年からの 5 年間では、人口が南区では 3.1%減少、緑区では 5.3%増加している。

学区単位で整理を行った人口、世帯数及び人口密度を表 3-2-2 に示す。平成 27 年の人口密度は菊住学区が最も多く、平成 22 年からの 5 年間の人口増減率は鳴海学区が最も大きくなっている。

調査地域周辺における昼夜別人口を表 3-2-3 に示す。平成 27 年の昼夜間人口比率は南区が 100.3%、緑区が 78.8%となっており、平成 22 年と比べほぼ横ばいである。

調査地域周辺における年代別人口を図 3-2-1 に示す。南区は 65～69 歳、緑区は 40～44 歳が最も多くなっている。

表 3-2-1 人口、世帯数及び人口密度

市区	平成27年				平成22年	人口増減率 (%)
	面積 (km ²)	世帯数 (世帯)	人口 (人)	人口密度 (人/km ²)	人口 (人)	
南区	18.46	61,064	136,935	7,418	141,310	-3.1
緑区	37.91	95,210	241,822	6,379	229,592	5.3
名古屋市	326.45	1,058,497	2,295,638	7,032	2,263,894	1.4

注) 平成27年10月1日現在の値である。

出典:「国勢調査(分野別統計調査結果)」(名古屋市ウェブサイト)

表 3-2-2 学区別人口、世帯数及び人口密度

学区		平成27年				平成22年	人口増減率 (%)
		面積 (km ²)	世帯数 (世帯)	人口 (人)	人口密度 (人/km ²)	人口 (人)	
南区	呼続	1.05	4,516	9,697	9,217.7	9,802	-1.1
	大磯	0.86	2,470	5,877	6,841.7	6,016	-2.3
	桜	0.70	2,846	6,544	9,335.2	6,600	-0.8
	菊住	0.75	3,828	8,785	11,791.9	8,390	4.7
	春日野	0.80	3,700	8,268	10,296.4	8,390	-1.5
	笠寺	1.87	5,341	11,960	6,402.6	12,233	-2.2
	星崎	1.99	2,499	6,081	3,051.2	5,834	4.2
緑区	鳴海	1.67	4,979	11,367	6,790.3	10,830	5.0
合計		9.70	30,179	68,579	7073.6	68,095	0.7

注) 1. 平成27年10月1日現在の値である。

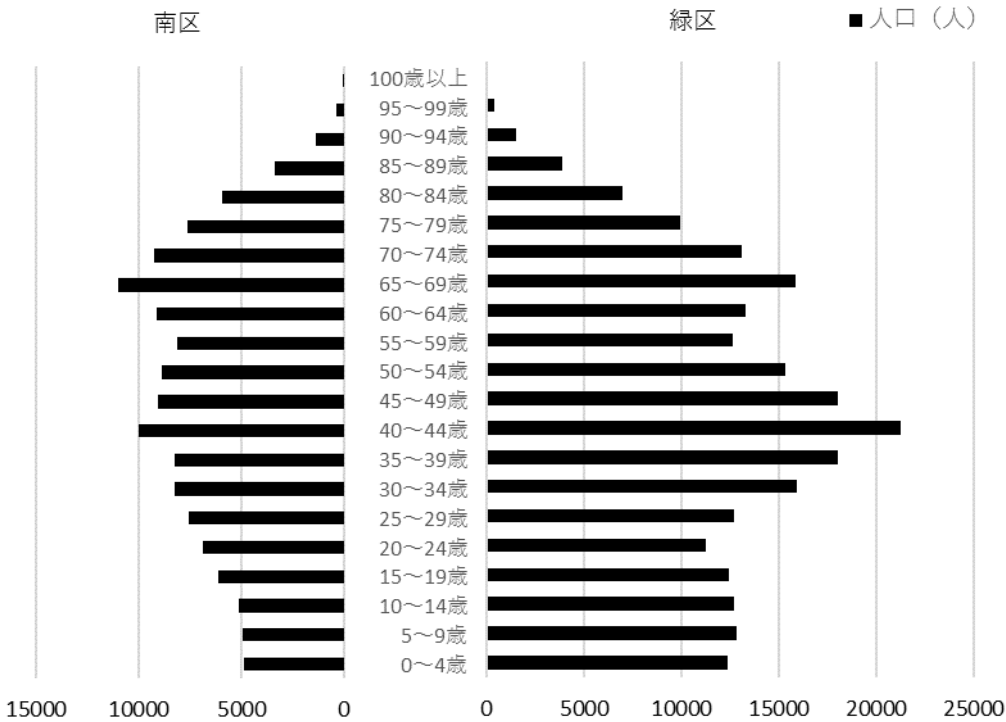
2. 学区単位の値は、調査地域外も含む。

出典:「国勢調査(分野別統計調査結果)」(名古屋市ウェブサイト)

表 3-2-3 昼夜別人口

市区	平成27年			平成22年	昼夜間人口 比率の差
	常住人口 (人)	昼間人口 (人)	昼夜間人口比率 (%)	昼夜間人口比率 (%)	
南区	136,935	137,368	100.3	100.4	-0.1
緑区	241,822	190,564	78.8	80.0	-1.2
名古屋市	2,295,638	2,589,799	112.8	113.5	-0.7

注) 1. 平成27年10月1日現在の値である。
2. 昼夜間人口比率＝(昼間人口/常住人口)×100
出典:「平成27年国勢調査 名古屋の昼間人口(従業地・通学地集計結果)」(名古屋市ウェブサイト)



注) 平成27年10月1日現在の値である。
出典:「平成27年国勢調査 人口等基本集計結果」(名古屋市ウェブサイト)

図 3-2-1 年代別人口

(2) 産業

ア 事業所数

調査地域周辺における産業大分類の事業所数を表 3-2-4 に示す。

両区ともに、事業所数は卸売業、小売業の数が最も多く、次いで製造業の順になっている。

表 3-2-4 産業大分類別の事業所数(平成 28 年 6 月 1 日現在)

(単位:事業所)

項目	南区	緑区	名古屋市
農林漁業	2	10	52
鉱業、採石業、砂利採取業	-	-	1
建設業	598	640	8,449
製造業	978	898	9,993
電気・ガス・熱供給・水道業	1	3	67
情報通信業	27	30	2,389
運輸業、郵便業	160	100	2,300
卸売業、小売業	1,488	1,695	31,702
金融業、保険業	62	111	2,228
不動産業、物品賃貸業	247	365	7,922
学術研究、専門・技術サービス業	188	246	6,930
宿泊業、飲食サービス業	786	774	17,671
生活関連サービス業、娯楽業	537	637	9,483
教育、学習支援業	167	339	4,022
医療、福祉	483	702	8,999
複合サービス事業	22	21	349
サービス業(他に分類されないもの)	330	306	7,558
総数	6,076	6,877	120,115

注)「-」は存在しないことを示す。

出典:「平成28年 経済センサス ー活動調査(速報) 結果の概要」(名古屋市ウェブサイト)

イ 従業者数

調査地域周辺における産業大分類の従業者数を表 3-2-5 に示す。

南区は製造業の数が最も多く、次いで卸売業、小売業、緑区は卸売業、小売業の数が最も多く、次いで製造業の順になっている。

表 3-2-5 産業大分類別の従業者数(平成 28 年 6 月 1 日現在)

(単位:人)

項目	南区	緑区	名古屋市
農林漁業	5	92	445
鉱業、採石業、砂利採取業	-	-	4
建設業	5,046	4,991	92,035
製造業	13,646	11,124	135,006
電気・ガス・熱供給・水道業	37	273	8,025
情報通信業	126	289	62,535
運輸業、郵便業	4,371	2,339	70,639
卸売業、小売業	12,700	17,534	337,873
金融業、保険業	676	1,009	45,083
不動産業、物品賃貸業	1,612	1,386	41,696
学術研究、専門・技術サービス業	1,964	1,288	59,645
宿泊業、飲食サービス業	5,278	7,697	159,830
生活関連サービス業、娯楽業	2,338	3,550	60,154
教育、学習支援業	1,652	1,968	55,176
医療、福祉	10,151	10,828	141,808
複合サービス事業	377	183	5,982
サービス業(他に分類されないもの)	3,669	3,056	164,864
総数	63,648	67,607	1,440,800

注)「-」は存在しないことを示す。

出典:「平成28年 経済センサス ー活動調査(速報) 結果の概要」(名古屋市ウェブサイト)

3-2-2 土地利用の状況

(1) 土地利用

ア 土地利用

調査地域周辺における民有地の地目別土地利用面積の状況を表 3-2-6 に示す。

地目別にみると、南区、緑区ともに宅地が最も多くなっている。

また、調査地域周辺における建物の利用状況を図 3-2-2、4 階建て以上の建物の分布状況を図 3-2-3 に示す。調査地域は住居施設が多くみられる。

表 3-2-6 地目別土地利用面積(平成 29 年)

単位: 上段; 面積(a)

下段; 割合(%)

市区	総数	田	畑	宅地	池沼	山林・原野	鉄道軌道用地	雑種地
南区	114,299	－	1,063	98,553	239	10	3,651	10,783
	100	0	0.9	86.2	0.2	0	3.2	9.4
緑区	231,534	428	13,149	178,058	32	5,893	2,438	31,536
	100	0.2	5.7	76.9	0	2.5	1.1	13.6
名古屋市	1,840,208	62,644	59,982	1,500,908	573	27,839	27,698	160,564
	100	3.4	3.3	81.6	0	1.5	1.5	8.7

注) 1. 平成29年1月1日現在の値である。

2. 固定資産課税台帳によって集計したものであり、免税点以下の土地を含み、公衆用道路、保安林、学校用地等課税対象外の土地は含まない。

2. 四捨五入により合計が合わない場合がある。

出典:「平成29年版名古屋市統計年鑑」(名古屋市ウェブサイト)

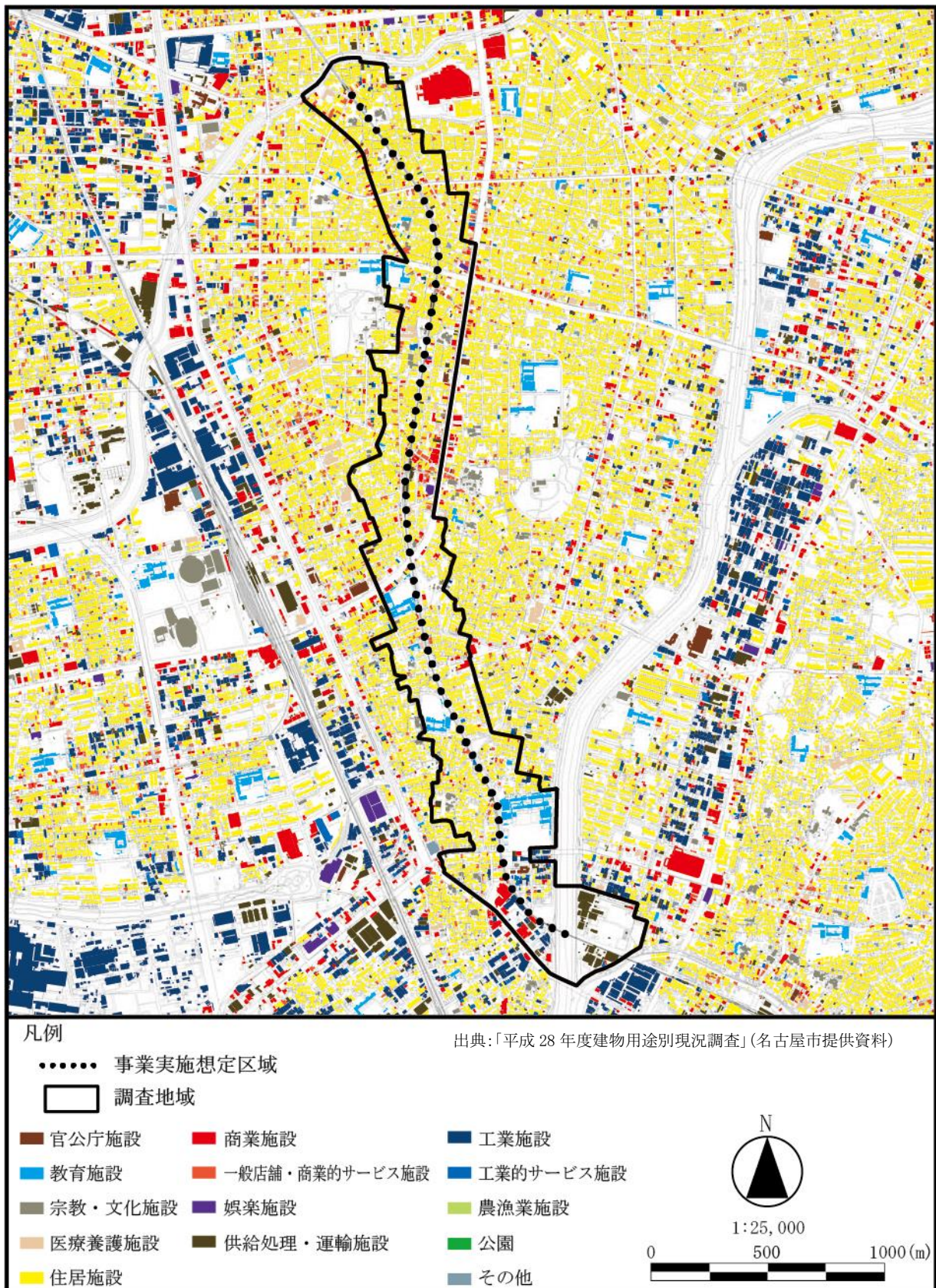


図 3-2-2 建物の利用状況

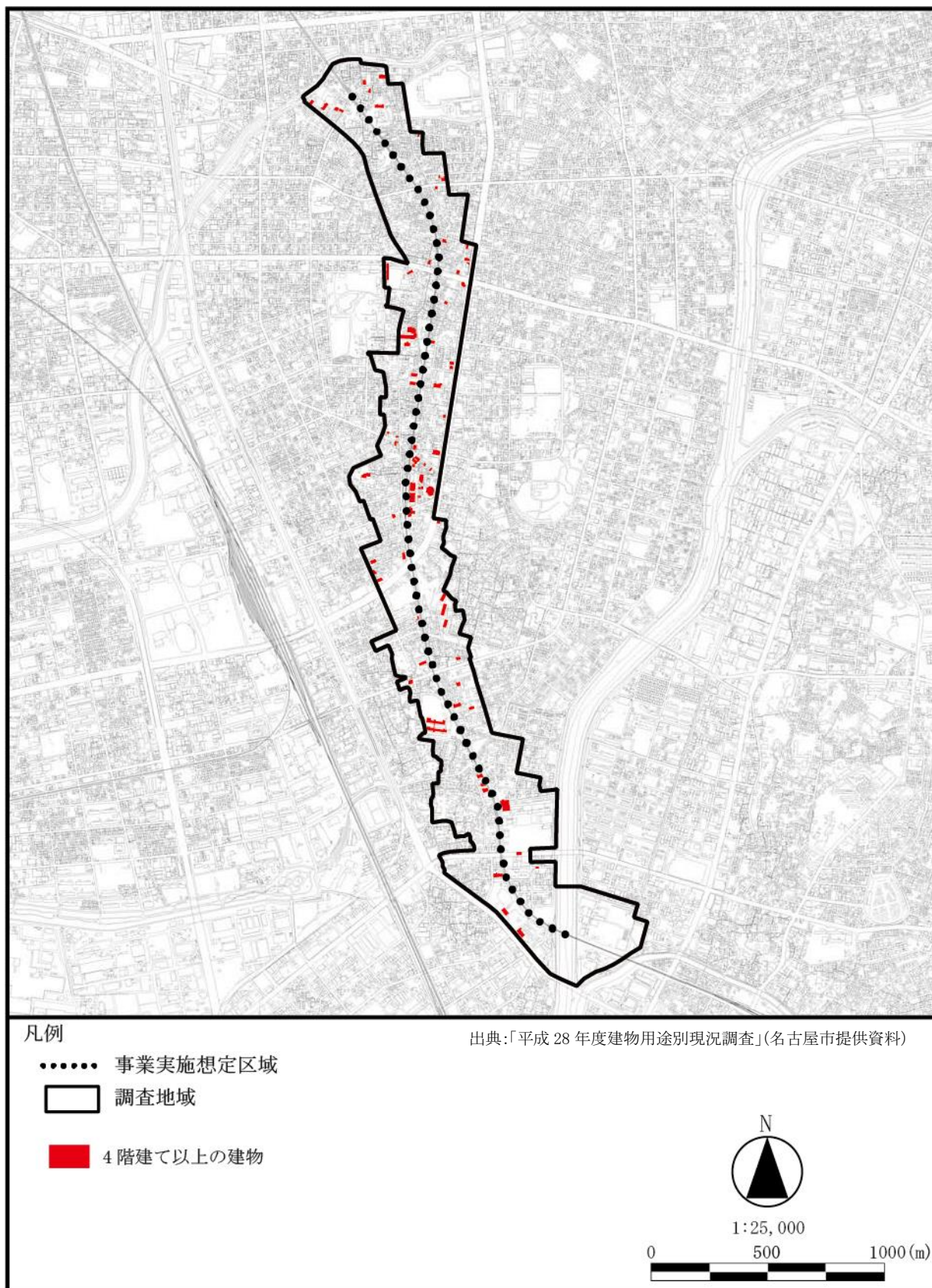


図 3-2-3 4 階建て以上の建物の分布状況

イ 都市計画区域

調査地域周辺における用途地域の指定状況を図 3-2-4 に示す。調査地域は、第二種中高層住居専用地域、第一種住居地域、近隣商業地域等が分布している。

また、高度地区の指定状況を図 3-2-5 に示す。事業実施想定区域には 15m 高度地区が含まれている。

ウ 周辺地域における開発の動向

名古屋市では地域資源や地域特性を生かした特色のある様々なまちづくりを効率的・効果的に進めていくため「戦略的まちづくり」を行っている。調査地域周辺においては、笠寺が「地域資源を生かした居住環境の向上と生活利便性を生かした既成市街地の再生」戦略の重点地域と位置づけられており、旧東海道など歴史的な資源を生かした趣のあるまちづくりや、鉄道高架、道路整備を契機とする居住環境の改善など駅周辺のまちづくりなどの検討が進められている。

出典:「名古屋市都市計画マスタープラン」(名古屋市、平成 23 年)

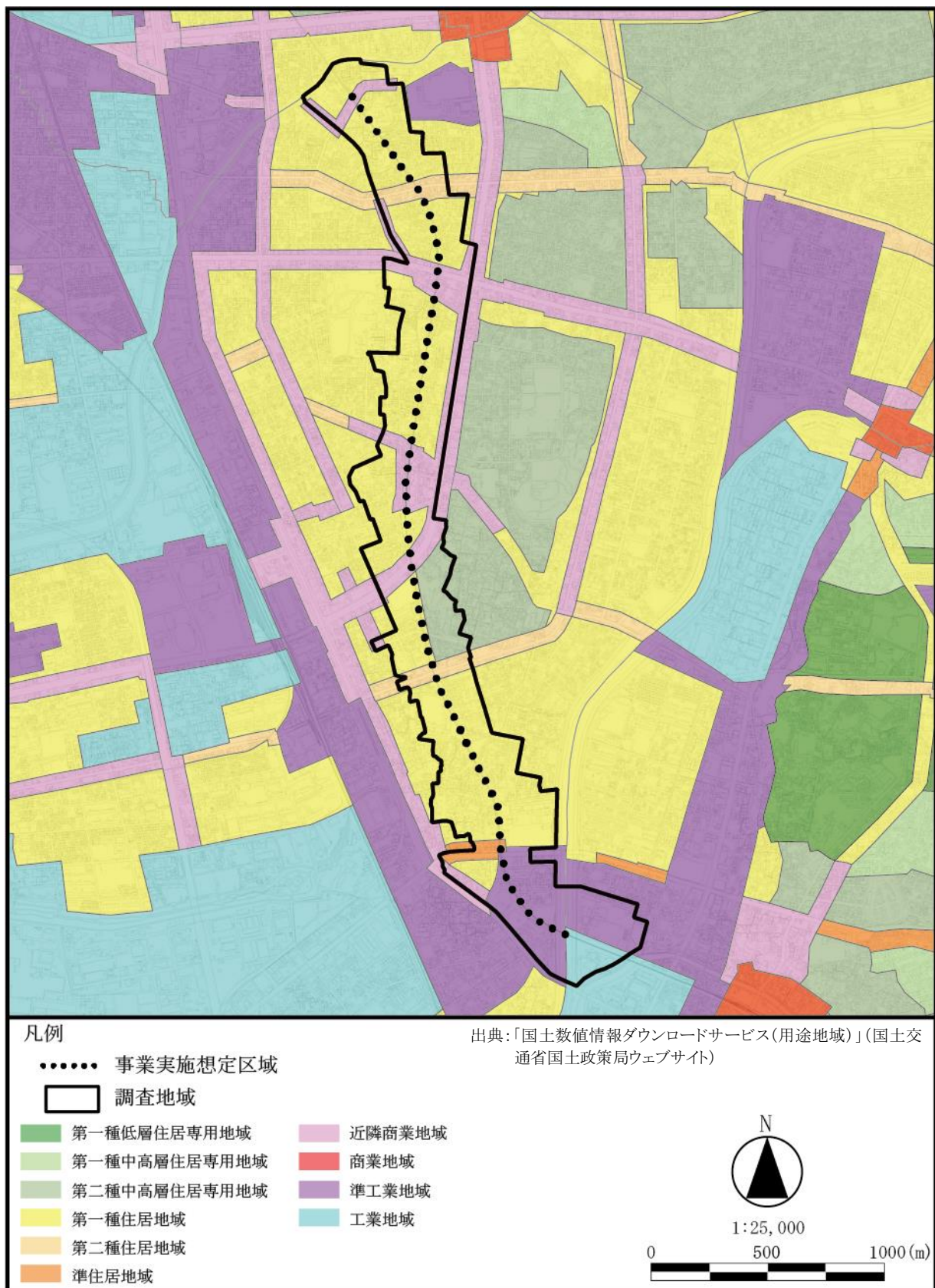


図 3-2-4 用途地域の指定状況

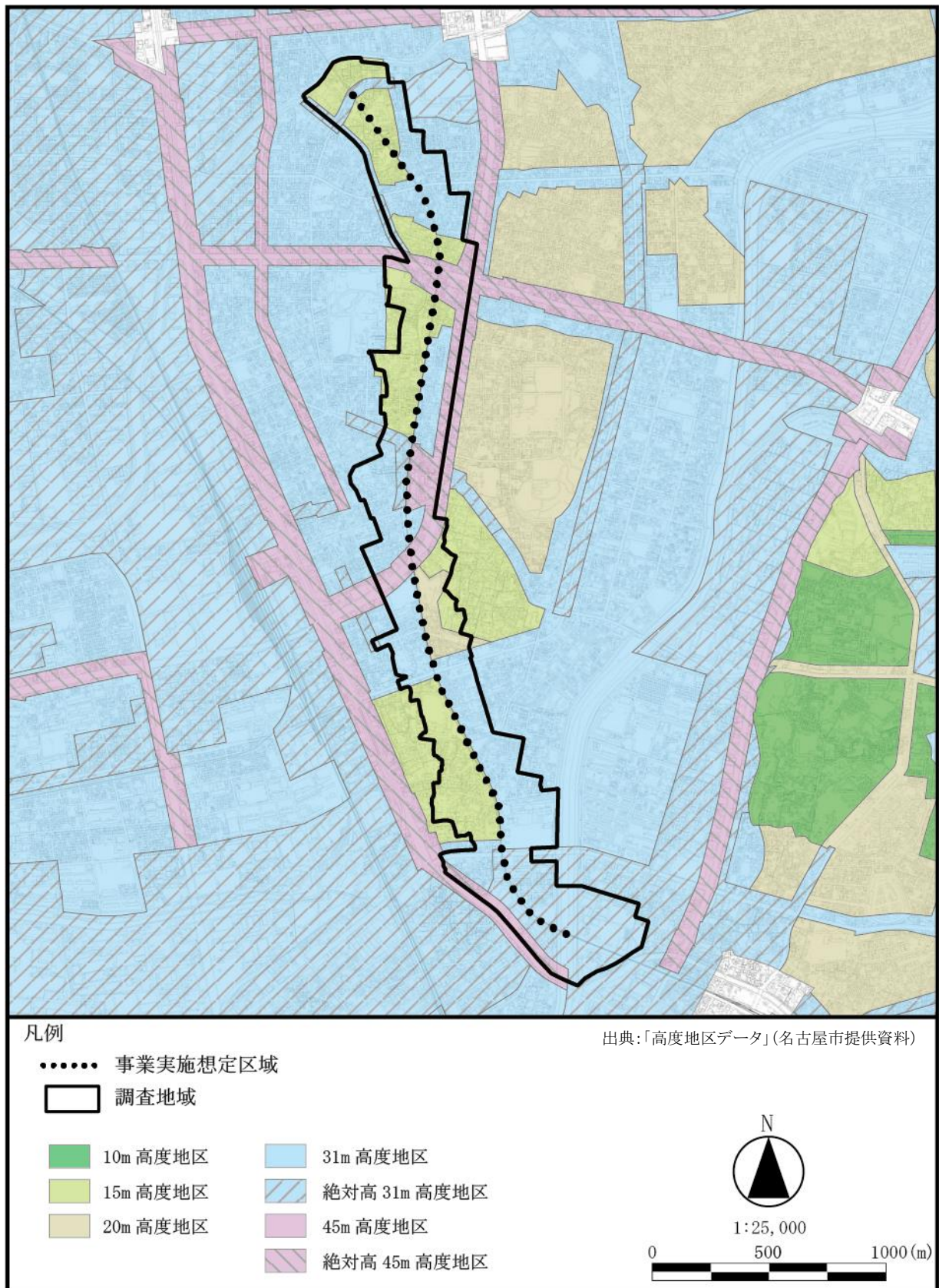


図 3-2-5 高度地区の指定状況

3-2-3 水域利用の状況

(1) 河川

調査地域を流れる河川は、天白川水系天白川である。天白川は河川延長約 21.5km、流域面積約 118.8km² の二級河川で、調査地域周辺では高水敷に公園やサイクリングロードが整備されている。天白川水系には、農業用の許可水利権が 6 件、慣行水利権が 18 件、工業用の許可水利権が 1 件あるが、昭和 36 年の愛知用水の通水により現在では農業、水道及び工業用水ともその大部分を木曽川水系等からの取水に依存している。なお、天白川に漁業権は設定されていない。

出典:「二級河川天白川水系 河川整備基本方針」(愛知県、平成 20 年)
「環境アセスメントデータベース(内水面漁業権)」(環境省ウェブサイト)

(2) 地下水

調査地域は「工業用水法」(昭和 31 年法律第 146 号)による指定地域に指定されていないが、名古屋市環境保全条例による揚水規制区域に指定されており、地下水の採取が規制されている。

出典:「地下水採取規制の届出及び規制の手引き」(名古屋市、平成 30 年)

3-2-4 交通の状況

(1) 道路、鉄道等交通網

調査地域周辺における主要な道路及び鉄道等の状況を図 3-2-6 に、市バス路線図を図 3-2-7 に示す。

調査地域は、本事業の対象路線である名鉄名古屋本線が縦断し、主要県道諸輪名古屋線、主要市道名古屋環状線等が横断している。

また、調査地域周辺において名古屋市バスが運行している。

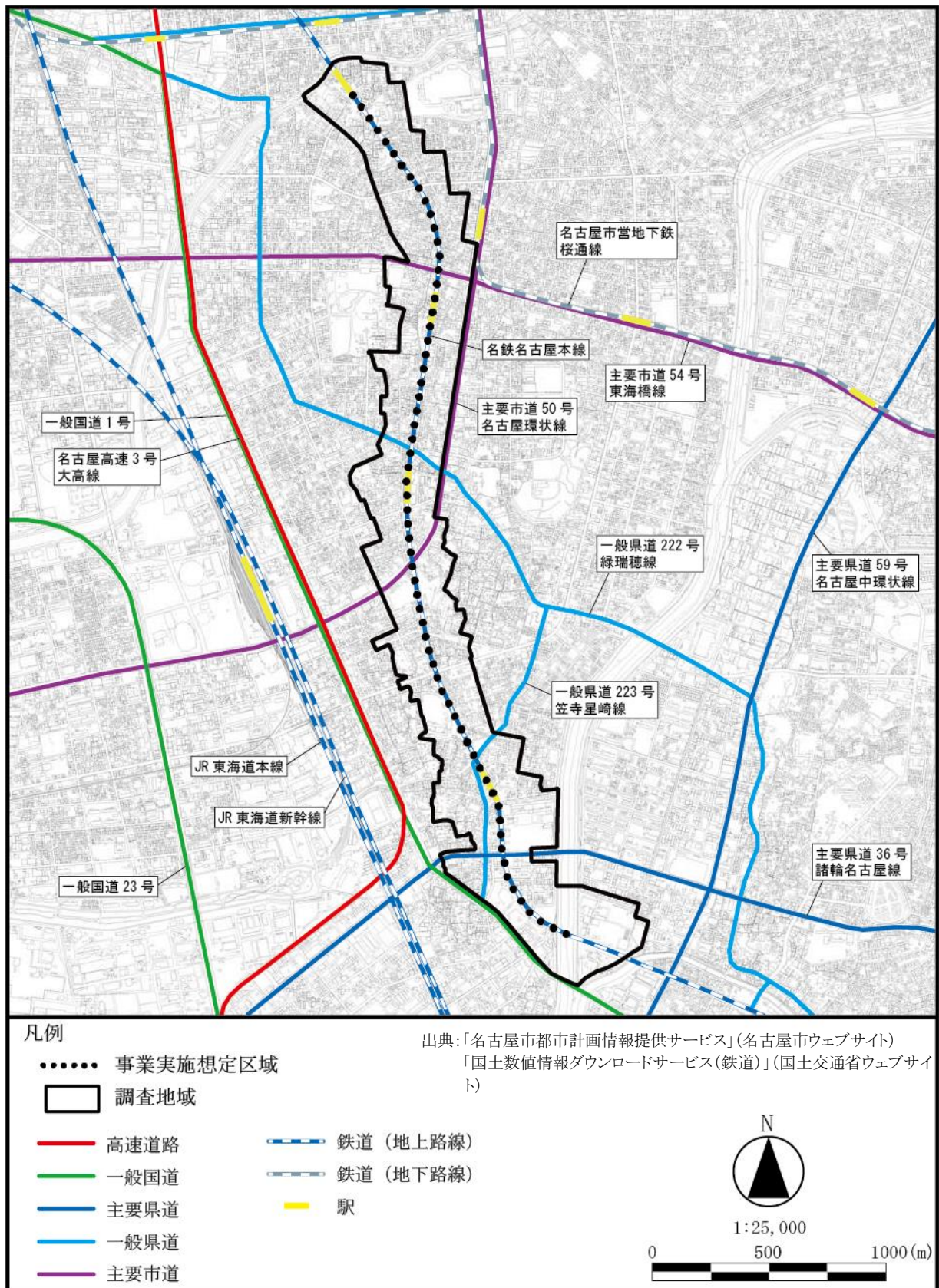


図 3-2-6 交通網の状況

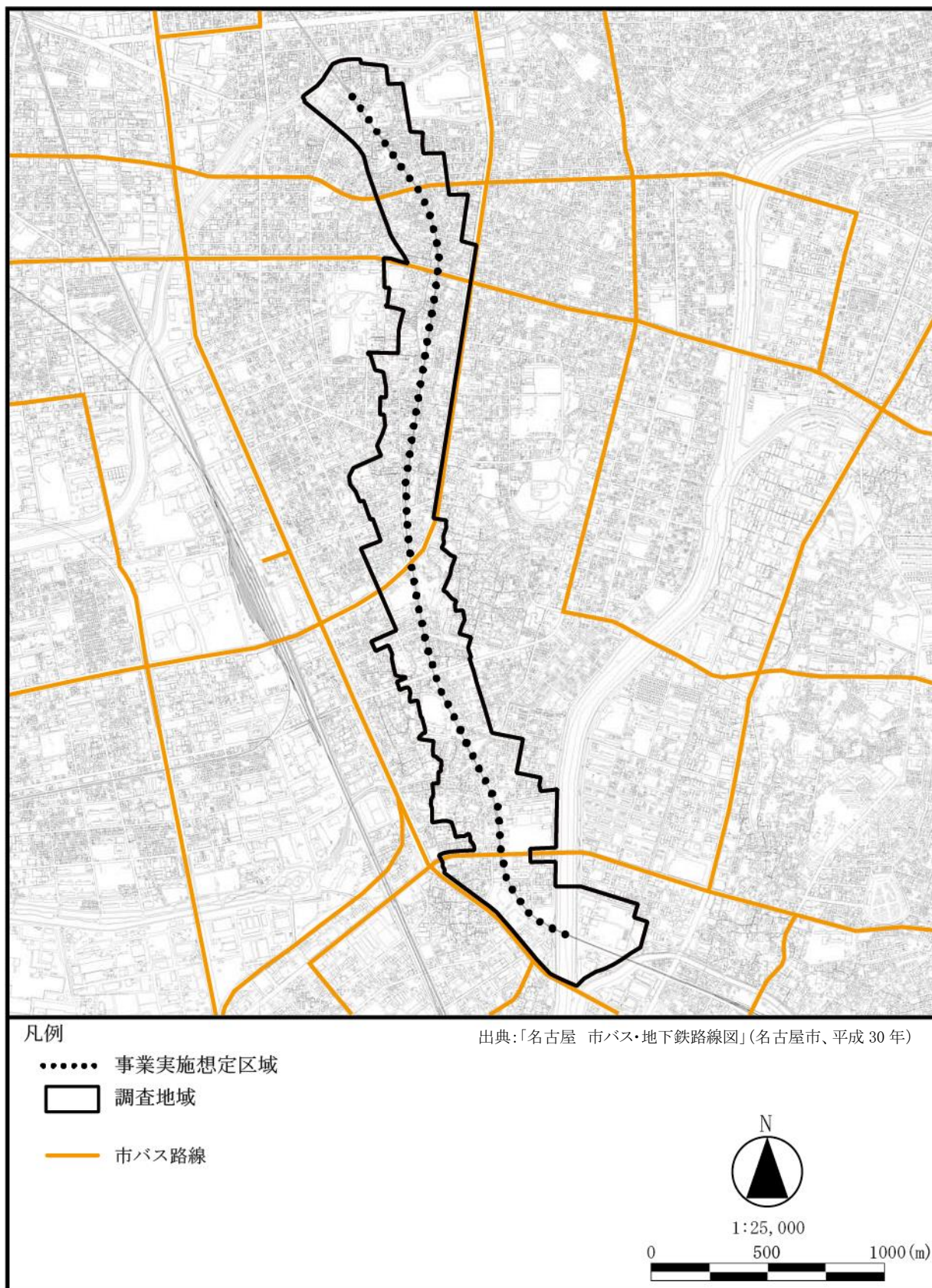


図 3-2-7 市バス路線図

(2) 道路交通状況

調査地域周辺における道路交通センサス調査の調査結果を表 3-2-7 に、調査地点を図 3-2-8 に示す。

平成 27 年度調査における調査結果をみると、調査地域を横断する諸輪名古屋線(区間番号 4)で 24 時間交通量が 17,756 台、昼間 12 時間交通量が 12,683 台、昼間 12 時間大型車混入率が 8.5%、名古屋環状線(区間番号 8)で 24 時間交通量が 27,925 台、昼間 12 時間交通量が 20,685 台、昼間 12 時間大型車混入率が 13.5%、東海橋線(区間番号 10)で昼間 12 時間交通量が 14,326 台、昼間 12 時間大型車混入率が 8.1%となっている。

また、歩行者等交通量調査結果は、調査地域を横断する東海橋線(区間番号 10)で歩行者類 368 人/12h、自転車類 661 台/12h、動力付二輪車類 333 台/12h、弦月宝生線線(区間番号 15)で歩行者類 575 人/12h、自転車類 584 台/12h、動力付二輪車類 185 台/12hとなっている。

表 3-2-7(1) 調査地域周辺における自動車交通量の状況

調査 区間 番号	路線	観測地点	昼間12時間 交通量 (台)	24時間 交通量 (台)	昼間12時間 大型車混入 率 (%)
1	一般国道1号	名古屋市緑区中汐田	21,665	29,681	10.3
2		名古屋市南区星崎1丁目	23,183	32,224	11.9
3		名古屋市南区本地通2丁目	32,504	45,180	11.1
4	主要県道諸輪名古屋線	名古屋市南区本星崎町字大道	12,683	17,756	8.5
5		名古屋市南区星崎1丁目	15,357	22,268	14.7
6	主要県道名古屋中環状 線	名古屋市緑区鳴海町字中汐田	23,839	31,706	12.6
7		名古屋市天白区野並三丁目	20,394	28,551	8.4
8	主要市道名古屋環状線	名古屋市南区前浜通4丁目	20,685	27,925	13.5
9		名古屋市南区駈上二丁目	26,411	—	9.5
10	主要市道東海橋線	名古屋市南区薬師通2丁目	14,326	—	8.1
11		名古屋市天白区野並2丁目	22,283	31,196	8.9
12	一般県道緑瑞穂線	名古屋市南区赤坪町	12,489	16,860	8.8
13		名古屋市南区大磯通2丁目	6,620	—	6.8
14	一般県道笠寺星崎線	※	5,333	—	3.7
15	一般市道弦月宝生線	名古屋市南区赤坪町	8,631	—	8.1
16		名古屋市南区弥次工町	7,348	—	14.4

注) 1. 区間番号は、図 3-2-8に対応する。

2. 「※」は出典に記載がないこと、「—」は測定を行っていないことを示す。

出典:「平成27年度名古屋市一般交通量概況」(名古屋市、平成28年)

表 3-2-7(2) 調査地域周辺における歩行者等交通量の状況

調査区間番号	路線	観測地点	歩行者類 (人/12h)	自転車類 (台/12h)	動力付 二輪車類 (台/12h)
7	主要県道名古屋中環状線	名古屋市天白区野並三丁目	3,660	3,183	0
9	主要市道名古屋環状線	名古屋市南区駈上二丁目	1,054	1,891	469
10	主要市道東海橋線	名古屋市南区薬師通2丁目	368	661	333
11		名古屋市天白区野並2丁目	3,487	2,946	0
12	一般県道緑瑞穂線	名古屋市南区赤坪町	1,291	2,153	0
13		名古屋市南区大磯通2丁目	355	473	139
15	一般市道弦月宝生線	名古屋市南区赤坪町	575	584	185
16		名古屋市南区弥次工町	153	533	164

注) 区間番号は、図 3-2-8に対応する。

出典:「平成27年度名古屋市一般交通量概況」(名古屋市、平成28年)

(3) 公共交通機関の利用状況

調査地域周辺における主な駅の利用状況を表 3-2-8 に示す。

駅の利用者数は、名鉄名古屋本線においては本笠寺駅が最も多くなっている。

表 3-2-8 調査地域周辺の主な駅の利用状況(平成 28 年度)

駅名		総数(人)
名鉄名古屋本線	呼続	414,459
	桜	670,335
	本笠寺	832,866
	本星崎	813,644
名古屋市営地下鉄 桜通線	桜本町	1,462,251
	鶴里	1,091,749
JR東海東海道本線	笠寺	2,887,539

出典:「平成29年版名古屋市統計年鑑」(名古屋市ウェブサイト)

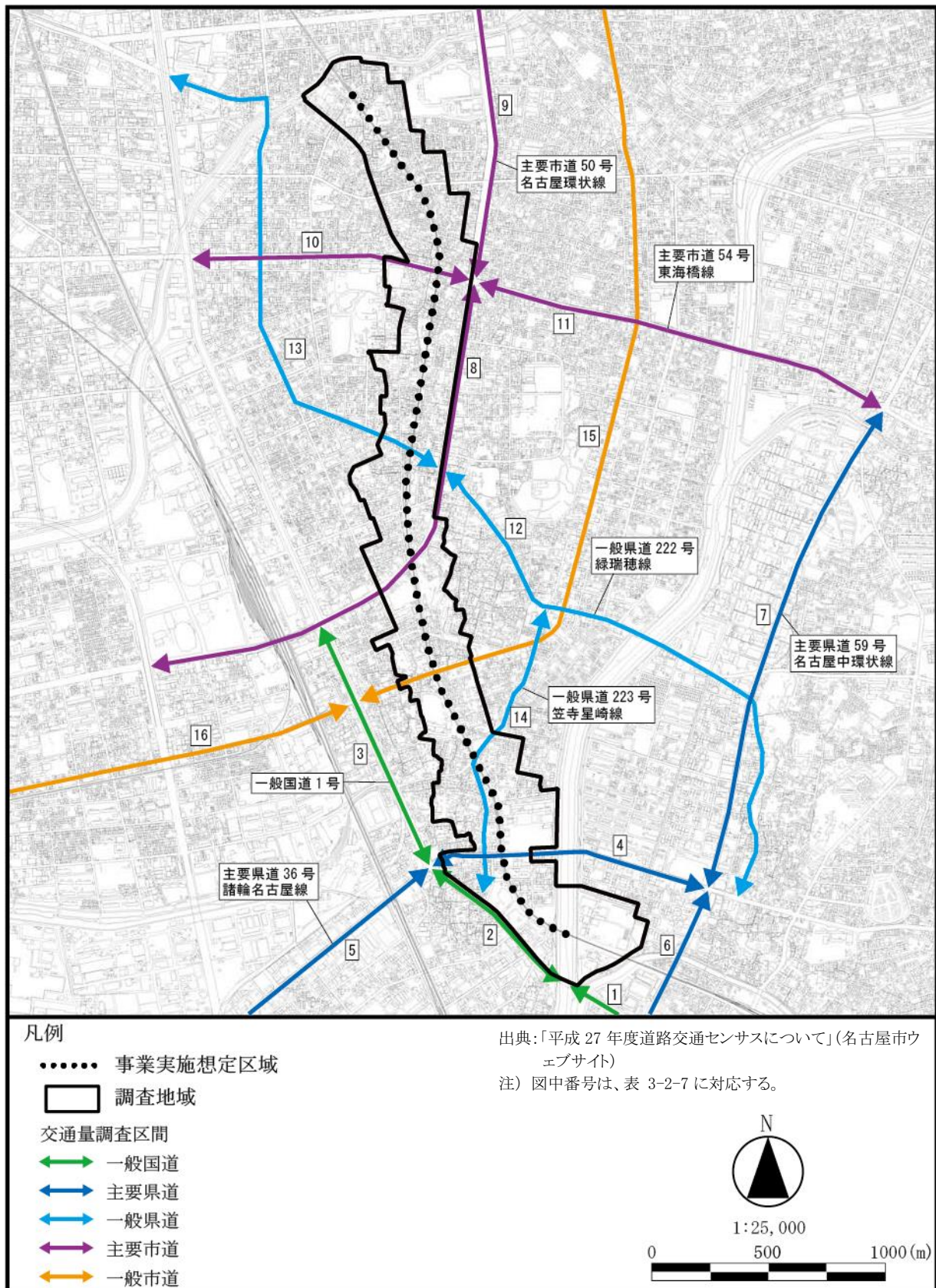


図 3-2-8 交通量調査